

四国防災八十八話

第六十七話 四度目の成功

監修・著作：愛媛大学防災情報研究センター

作画：林 真由美（愛媛大学美術研究会）

**昭和二十五年、愛媛県西条市でのお話です。
その頃、日本は、戦争に負けて荒れていました。
そこへ、キジア台風という大きな台風が襲ってきたのです。**

**その台風によって、広江川口の海岸堤防が
壊れてしまいました。**

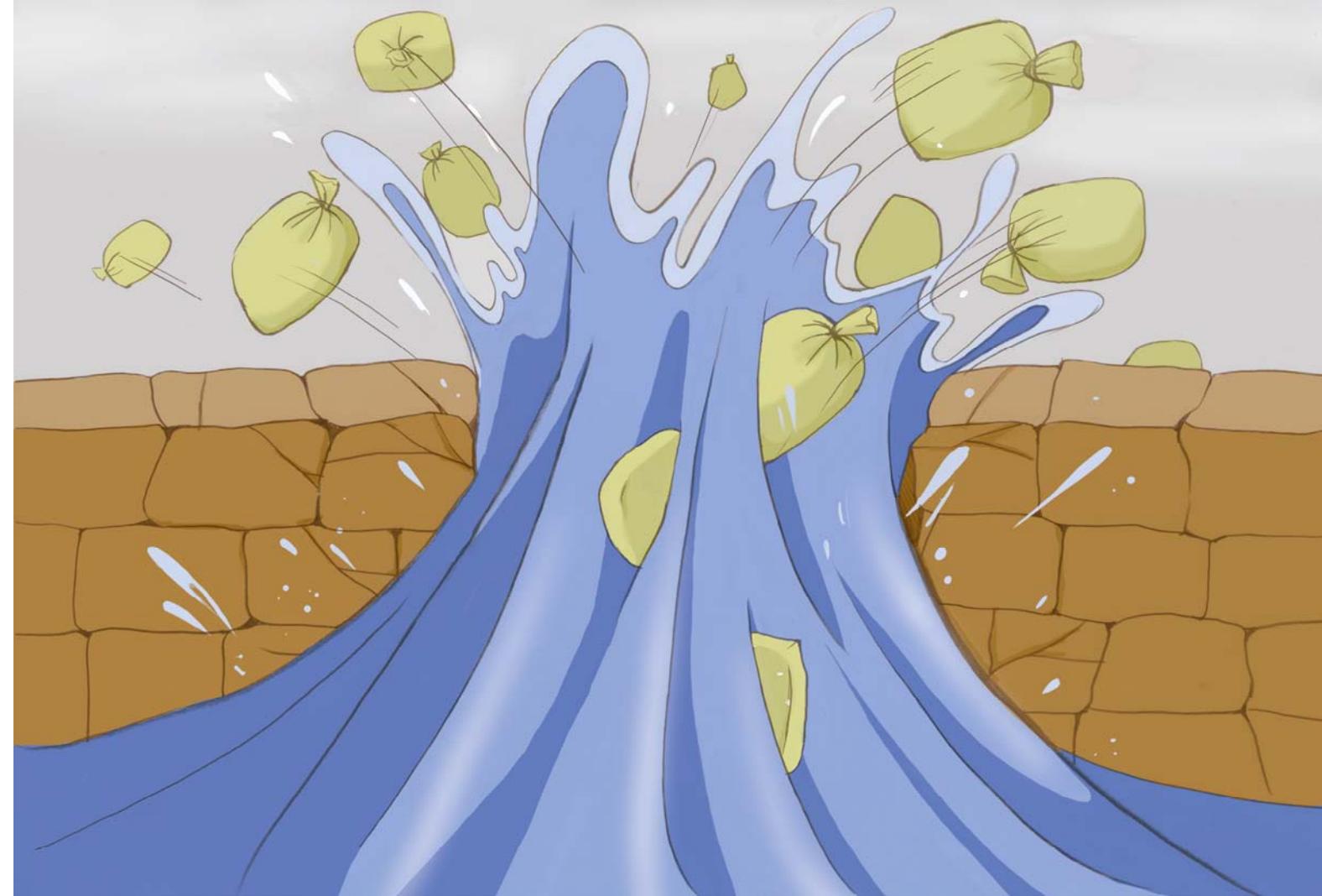
**壊れた堤防からは、海水がザーザーと流れ込み、
みんなの家を襲いました。**



**どんどん流れ込む水を防ぐため、
みんなが集まります。**

**消防団の人・女の人・子供まで、
町の人々がみんな協力して、
『土のう』という土を詰めた袋を
壊れた堤防へ投げ込みます。**

**上手くいけば、塞がると信じて
一生懸命投げ込みます。**



ところが、
みんなで、あんなに投げ込んだ土のうは、
想像を超える波の強い力には敵わず、
あっけなく壊されてしまいました。

また、海水がザーザーと入ってきます。



でも、そこで落ち込んでいる暇なんてありません。

みんなは、また土のうを作り、
投げ込み始めました。

「……今度は、大丈夫か……？」

しばらくの間は持ちこたえていた土のうを、
みんなハラハラしながら見つめています。

しかし……。



バッシュャー——ン!!!

「うわあ～!!! やっぱりダメだあ～」

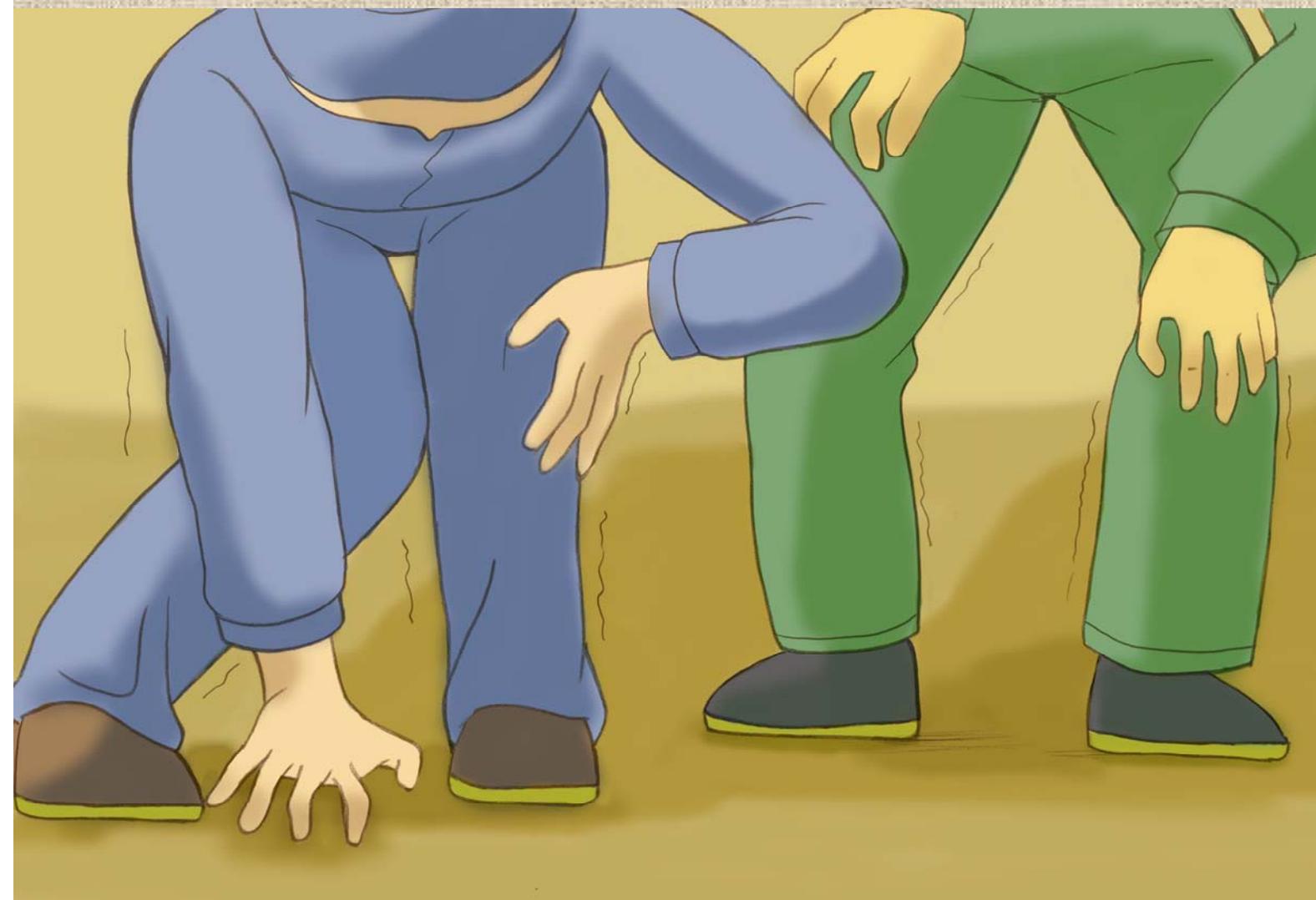
**二度目の失敗に、
みんなは、少しあきらめそうになりました。**

**その上、
今度こそは、と積み上げた
三度目の堤防も
波に壊されてしまいました。**



三回も頑張ったのに、
全て失敗してしまって、
みんな本当に疲れきって、
ガックリと項垂れてしまいました。

「もう無理かもしれない……」



**「いや、頑張ろう！
きっと出来るはずだ！！」**

「よしっ！やろう！」

**みんなは、最後の力を振り絞って
立ち上がります。**



**あきらめかけていた人たちも、
次々と立ち上がり、
土を袋に詰めて行きます。**

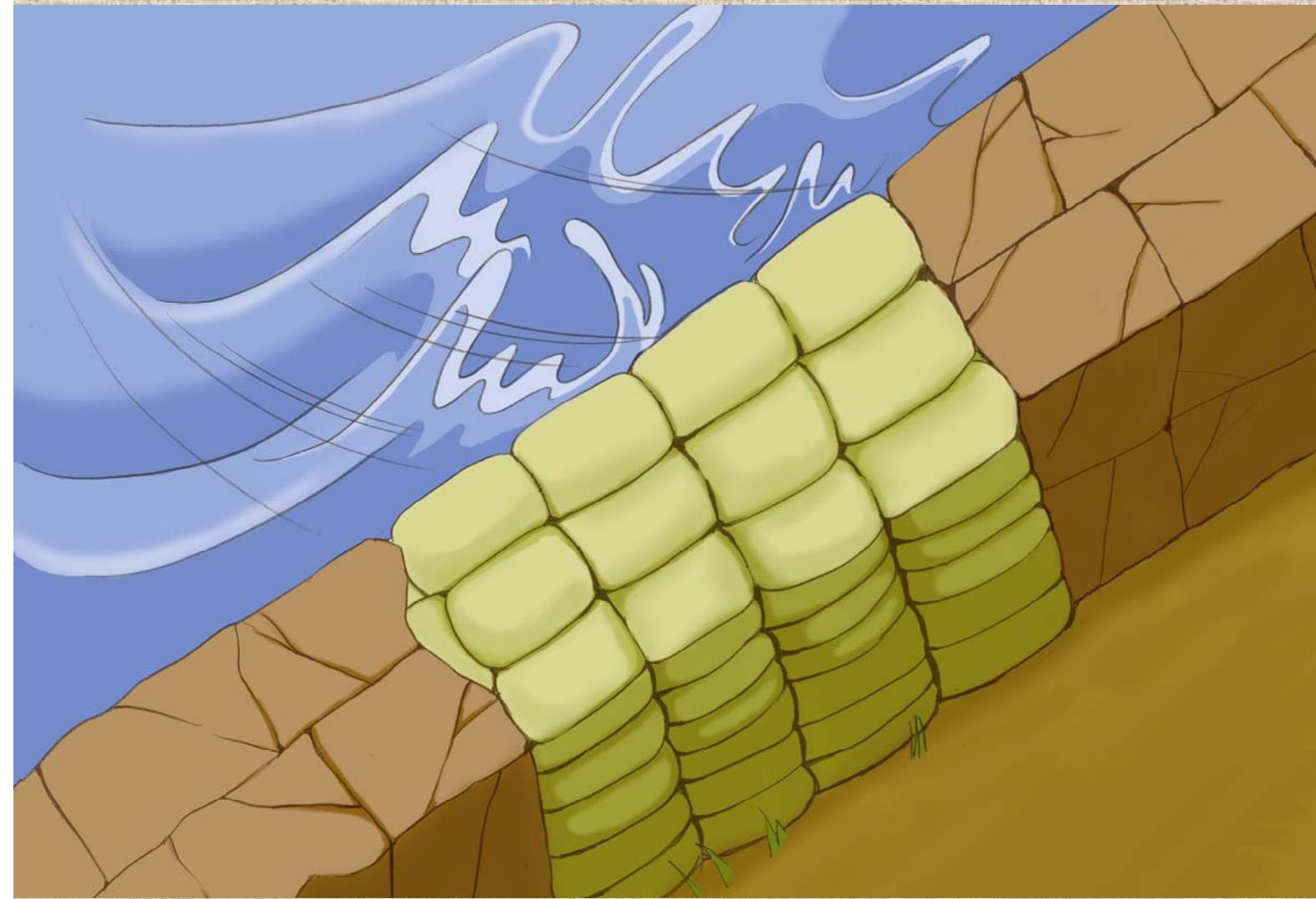
**全員が力を合わせ、
四度目の挑戦が始まりました。**



やっとの思いで、
堤防を積み上げた時、
みんなの力は
もう少しも残っていませんでした。

あとできることは、祈ることだけです。

みんな息を吞んで
四度目の堤防を見つめます……。



**みんなの見守る中、
時間が一秒、一秒と過ぎていきます。**

**堤防は、台風の荒波に揺れながらも、
壊れることはありません。**

「・・・持ちこたえたぞ・・・！」

「・・・成功だ・・・！」



「やった…！！」

「やったぞー！！！！！！」

今までしんと静まり返っていたみんなから、
わっと歓声が上がりました。

あきらめなかったみんなの努力が、
実を結んだ瞬間でした。